

教育目標		やさしく かしく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——					
重点目標		(1)基本的な権利が尊重される教育の推進 (2)一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3)わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4)心ふれあう仲間づくり (5)基本的な生活習慣を身につけさせる (6)心を育てる美しい環境づくり (7)命を守る安全教育の推進 (8)健やかな体づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ・個々の教師の資質を向上させる。	・基礎学力の向上をめざし、授業作りを行っていく。習熟しにくい子どもたちには、個別に関わり、児童に合った指導をしていく。 ・週4回、10～15分間の朝学習を活用し、反復練習を繰り返し行い、徹底する。漢字と計算練習を中心に行う。 ・計算・漢字の練習を日頃から家庭での学習課題として出し、小テスト前日にはテストと同じ範囲を課題として出す。 ・兵庫型教科担任制や新学習システム、チームティーチングを活用することによって、きめ細やかな個に応じた指導をする。	・単元テストの計算分野の正答率が80パーセント以上になる。 ・朝学習の時間、児童が集中して学習に取り組める。 ・漢字の小テストの正答率が90%以上になる。	B	・単元テストの計算分野の知識・技能における正答率が、80%に達しない学年もあった。 ・学校全体で15分間の朝学習の時間を確保し、計算・漢字の学習に取り組むことができた。 ・朝学習や授業の始めに学習内容の復習を行ったり、プリント等を活用し、繰り返して練習した結果、学習内容の定着を図ることができた。 ・どの学年も宿題などで、新出漢字を含む漢字練習を家庭での課題等で繰り返し行い定期的に小テストを行った。正答率90%以下の学年がほとんどであった。 ・兵庫型教科担任制により、一人ひとりの児童の課題などを複数の担任で把握し、個に応じた指導をすることができた。 ・研究授業を行う際、事前に学年のもう一つのクラスで授業を行うなどして、十分に学年や学団で、教材研究や事前研を行い授業の内容を深めることができた。 ・学期ごとに日々の学習の取り組みについて、成果と課題についてまとめ、次の学期の指導に活かした。	・単元の途中で復習を行い定着をはかる。また、朝学習なども活用し反復練習に取り組む。定着していない児童には、個別に指導していく。 ・漢字を使った文作りや、アプリを活用し漢字に親しみをもって学習に取り組めるようにする。 ・未定着の漢字の反復練習をする。 ・それぞれの教師の授業の工夫を研修会などで共有することで今後も研鑽に努める。 ・全職員で児童の課題や実態を共有し、それらに合った授業内容の研究を深めていく。	学習意欲をさらに上げるために漢字検定や算数検定などに挑戦してほしい。 目標未達成児童の学習状況分析が必要と考えます。意欲を高めるために業間休みに九九の歌や英語の歌など流すと自然と覚えられているのではないか。朝学習での定着はすばらしいと思います。
	学力の向上	・思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開する。 ・書く活動を充実させ表現力の育成を図る。 ・読書活動を充実させ、本に親しむことを通して、語彙の力を養う。	・自分の考え持つために、一人学習の時間を授業に取り入れる。 ・自分の考えたことを全体の場で各自が表明する場面を授業の中に取り入れる。 ・授業の中で、自分の考えをノートやワークシートに書く活動を取り入れる。 ・要約文や感想文を書いたりする活動を取り入れることで、内容や目的を理解して書くなどの表現力の育成を図る。	・学習課題に対して、児童が自分の考えをもち、主体的に学習に取り組むことができる。 ・ワークシートやノートに自分の考えを書ける子が90%以上になる。 ・読書は楽しいという児童が85%に増やす。 ・1ヶ月の読書目標数平均10冊を達成する。	B	・子どもがそれぞれに考えを持つような授業作りを行うことができた。 ・自分の考えが書ける子が90%満たない学年が多かった。 ・ノート指導を丁寧に行い、ノートを書くことへの抵抗感がなくなり、書く習慣が身につけてきた。 ・「本を読むのが好きだ。」という児童の割合が昨年度と概ね同じで、82パーセントであった。 ・1ヶ月の読書数の平均は7～9冊であった。 ・朝学習で週1回読書の時間を設定し、本に親しむ時間を確保することができた。	・個別に聞き取りや例文を提示をすることで、自分の考えを表現しやすくしていく。 ・互いの意見を認め合える学級づくりをしていく。 ・クラス全体で問題を考え、いろんな意見を共有することで、自分の意見を書けるようにする。 ・例文や書き方を提示し、課題に取り組むようにする。 ・子ども同士で本を紹介させたり、読み聞かせの時間をとったりして本に興味や関心を持たせる。 ・図書時間に、本の紹介をしてもらったり、「おすすめの本」を紹介する機会を持ったことで、児童がたくさんの本に出会う機会を作り、読書に対する児童の意欲の向上に努める。

	<p>・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</p> <p>学習意欲の向上</p> <p>・学習習慣の定着を図る。</p>	<p>・各教科の単元指導で、電子黒板、実物投影機等のICT機器を効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>・授業で提示する課題や教材を工夫し、児童が意欲的に自分の考えを持って取り組めるようにする。</p> <p>・学習のめあてを明確にすることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>・学習の振り返りの視点を提示することで、一人一人が学習内容の理解を深められるようにする。</p> <p>・漢字や計算を反復練習できる学習を宿題として出し、宿題に毎日取り組む習慣をつける。</p> <p>・休日も自主学習を課題として出すなど、家庭学習に進んで取り組めるように課題を工夫する。</p> <p>・「家庭学習の手引き」を配布し、各家庭との連携を図る。</p>	<p>・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」の肯定的回答率が90%以上になる。</p> <p>・児童アンケートの「先生は教え方をいろいろと工夫している」で肯定的評価が85%以上になる。</p> <p>・児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が95%以上になる。</p> <p>・児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を高学年60分以上している」の肯定的評価が80%以上になる。</p>	<p>A</p>	<p>・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」に対する肯定的な回答が89%と90%に近かった。</p> <p>・タブレットの活用が進み、視覚的支援や考えの共有活用がよりできるようになった。児童の学習意欲も高まった。</p> <p>・教職員のアンケートの「ICT機器を効果的に取り入れている」に対し、肯定的評価が96%で昨年度を上回っていた。</p> <p>・児童アンケートの「先生は教え方をいろいろと工夫している」に対して肯定的な回答が93%であった。</p> <p>・授業の中でめあての提示はほとんどの教員が意識して行うことができた。</p> <p>・振り返りは時間が十分に確保できず、書かせる内容があいまいになってしまうこともあった。</p> <p>・児童アンケートの「宿題を提出している」の肯定的評価が94%であった。</p> <p>・児童アンケートの「家庭学習(宿題を含めて)を高学年60分以上している」の肯定的評価が57%であった。</p>	<p>・「分かりやすい授業」を展開していくための授業研究を継続していく。教師同士で授業を見合う機会を多く設け、教師の授業力の向上につなげる。</p> <p>・ICT機器、具体物や映像の効果的な活用方法についても全職員で研究を深めていく。</p> <p>・振り返りの時間をとることを定着させる。</p> <p>・振り返りに書く内容を教師が提示して、本時の授業の核となることについて考えを整理したり深めたりさせるようにする。</p> <p>・自主学習やスクールタクトでの課題、読書や運動等も取り入れ、家庭学習の意欲につなげるようにする。</p> <p>・家庭学習の時間がどの程度できているか、定期的に振り返り確認することで、目標を持って取り組めるようにする。</p>	<p>自分の思いを伝えるのは難しいので書いて思いを表現するのがよいと思う。他者を受け入れることができる子ども達が増えてほしい。</p> <p>今年は「コロナ禍」ということもあり、取り組みが大きく制約された中自己評価が「B」という結果は評価できる。「考えを持つ」「全体の場で表明することの間にある差。学級風土だけでなく断片的にでも書く、表出することに「自ら開く」という意味も伝え支援をお願いしたい。</p> <p>上級生から本を紹介して読書をするという取り組みはいいと考える。</p> <p>学習時間の記録をpadに入力するシステムは効果があった。</p> <p>宿題チェック方法の見直しや児童への声かけがやる気を高めている。</p>
--	--	--	--	----------	--	---	--

豊かな心・健やかな体	不登校児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の未然防止を図る。 ・欠席連絡のない児童については、始業前後に家庭に連絡を取り、連絡のつかない場合は担任、児童支援教員やその他の教員と連携して必要に応じて家庭訪問を行う。 ・遅刻が増えてきた児童については、担任が学校での児童の様子を気にかけたり、保護者や児童へ遅刻しないように声をかけたりする。 ・ケース会議を開き、個に応じた対策を検討する。(別室登校、担任が登校前に家庭訪問する等) ・いじめアンケートをとり、いじめが原因の不登校を未然防止、早期発見する。 ・不登校の児童や別室登校の児童が出た際には、職員が連携して支援体制づくりをし、学校全体で取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病欠者を除き、欠席日数が年間30日以上の子を1パーセント以下にする。登校への行きしぶりが見られる児童に対して、月1回以上、必ずケース会議を開く。 ・保護者アンケートの「子どもは楽しく学校に通っている」、児童アンケートの「学校は楽しい」の肯定的回答が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も上靴チェックと電話連絡を継続。保護者とも連絡を取り合うことで、状況が良くなる児童もいたが、遅刻が常態化していた児童もいた。 ・遅刻が常態化している児童については、担任から声かけを行っている。改善する児童もいたが、改善しない児童もいた。 ・今年度もケース会議を事態が悪くなる前に開くことで、先手を打って対応することができた。 ・いじめアンケートを年3回実施。本校ではいじめに起因する不登校はなかった。 ・不登校児童への対応については担任がまず対応するが、担任や学級の状態に合わせて支援体制も変えていく必要がある。 ・長期欠席児童は今年度も1%未満だった。 ・保護者アンケートでの肯定的意見が90%に対し、児童は80%だった。 ・不登校の未然防止という観点で、学級づくりについても啓蒙がされてこなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻が続き、改善しない児童については担任だけに任せるとはならず、生活指導部会などで情報共有し、どのように対応していくかを考え、実施していく。 ・いじめアンケートの丁寧な実施を今後も続け、アンケートに現れることだけでなく、日頃の児童の小さな変化などを学年で共有していくなど、すぐに対応できるようにしていく。 ・課題を抱える児童については電話連絡だけでなく、家庭訪問や面談の機会をより多く持ち、早期に対応できるようにしていく。 ・不登校児童や別室登校の児童が出た際には、関係の職員以外だけでなく、全職員に情報を共有し、担任と児童・家庭を支援していけるよう体制を整える。 ・児童の居場所づくり・絆づくりについてのチェックシートを作成し、不登校未然防止の観点から、各担任が自分の学級経営を振り返られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で児童もですが、保護者の方のケアも必要でないかと思われる。 未然防止のために楽しくできる「生活チェック」で自立支援できればいい。例えば「朝自分で起きることができた」「15分朝の光を浴びた」など適切に対応されていると感じる。 不登校児童への対応はいつも感心させられる。 コロナ禍で市域全体で不登校児童が増加傾向にある中、長期欠席者が1%未満であったことは、先生方の取り組みの成果であると思います。配置されている不登校対策支援員と連携強化、不登校の未然防止に加え、不登校の兆候が見え始めたから早期対策に努めていただくようお願いしたい。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ・体育委員会児童主催の外遊び啓発運動や運動大会を実施する。 ・休み時間の外遊びの充実に向け、各クラスに配布する備品の充実と、運動場の環境整備に取り組む。 ・鉄棒、マット、縄跳びなど、授業で活用できる「運動カード」を各学年の学習内容に応じて作成し、活用する。 ・体育大会に向けてリレー練習ができるように朝の時間にトラックを開放して練習時間を設けたり、トラック以外にも練習ゾーンを設置したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童の外遊びの機会を増やすことを目指し異学年でのドッジボール交流会など、コロナ禍でも実施できるような企画を実施する。 ・休み時間での外遊びを通して、体を動かすことの楽しさを感じることができる。 ・授業で「運動カード」を活用し、授業や業間休みを通じて学習内容を深めようとする。 ・職員に周知し、多くのクラスが活用できるようにする。児童自らが主体的に取り組むことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策の観点から、外遊びの啓発運動を実施することはできなかったが、児童の体力向上に向け、12月から「せつトレ」を開始した。朝学習や休憩時間等を使って、運動の機会を増やすことができた。また、HPに掲載することで、家庭での取り組みも啓発することができた。 ・ソフトバレーボールがパンクしやすく、取り替えることが多かった。 ・安全点検を重ねて行い、不安定な鉄棒や体育倉庫の扉の破損など、事故やケガの恐れがある場所の改善ができた。 ・体育委員会の児童に、運動場や体育館、倉庫等の整理整頓と清掃活動を行い、運動環境を整えることができた。 ・なわとびカードや鉄棒カードを使って、児童の目標を明確にすることで、意欲に繋げることができた。また、3年生以上は、タブレットを使って運動している様子を動画で撮影し、客観的に振り返られるようにしたり、お手本となる動画等をスクールタクトで共有したりと、タブレットを授業で活用し、より効果的な活動にすることができた。 ・例年よりも朝の時間や業間休みにリレーの練習をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を十分に検討し、啓発運動、運動大会を実施する。 ・せつトレの効果を検査し、来年度以降の在り方を検討する。 ・ソフトバレーボールに代わるボールを探し、児童にとってよりよい遊び道具を揃える。 ・練習エリアと遊びエリアを設け、トラックも使用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「コロナ禍」においていろいろ工夫されていることに十分評価できる。体を動かすことで学習意欲の向上につながると思う。 今の体力づくりが生涯の自分を支えることを伝えたい。一輪車がはやっているので使用できるものを増やしたり、整備したりすることが必要。 学校運営協議会でも「せつトレ」の周知に協力いたします。感染症対策を講じながら体育活動は困難であったと思う。
開かれ信頼される学校園	積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学校情報を発信する。 ・授業参観やオープンスクール・仲間作り集会の参観を実施し、保護者や地域の方に授業の様子を公開する。 ・学校運営協議会にて、職員と地域の方が積極的に意見交流できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを週1回更新し、学校情報を積極的に発信する。更新は計画表を作成し、見直しをもって行う。 ・学校だよりを月2回程度を目標に発信する。 ・行事委員会で、月に一度は学校公開できるように計画的に行事を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝ミマモルメで下校時間などのお知らせを発信できた。 ・学校ホームページ、学校だよりを使い、情報の発信に努めることができた。 ・制約がありながらも体育大会、音楽会を公開できた。オープンスクール・授業参観は行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ホームページや学校だよりを活かして、情報発信をしていく。学校だよりの電子化も進めていく。 ・行事等の内容を考え、学校公開できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> HPは見やすく、学校の様子がよくわかった。 学校運営協議会について配信すべきである。

学校関係者評価総括
 コロナ禍での先生方の業務量が増大している中、子どもたちの学びを止めないためにご尽力いただいていることに感謝申し上げます。このような厳しい状況が続く中、自己評価基準の全項目が「B」であったことはとても素晴らしいことだと思います。あえて言うなら「B」だったところを「A」にしていくためにどう工夫するか考え実践していただきたい。1人1人を丁寧に見ていただけていると思います。今後の取り組みにも期待します。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・自分で考え、自分の言葉で表現し、主体的に学ぶ、自尊心を持った児童を育成する研究を推進する。
- ・様々な学習活動において、ICTを積極的・効果的に活用し、情報活用能力の育成を図るとともに、家庭学習での「学びの道具」として有効活用を推進する。
- ・仲間づくりを核として、支持的な風土のある学級づくり、いじめのないすべての子どもが楽しく過ごせる学校づくりに全職員で取り組む。
- ・毎日の運動を定着させるため「せつトレ」を導入し体力を高める。数値による実態の把握と改善点を把握し児童の体力向上に力を入れる。
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動を更に発展させていく。(九九の聞き取りなど)

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った